



No.24 学校図書館 司書だより

2016年3月



わたしと読書

読むこと 書くこと

浅野牧子

近年、文字を読む手段が多様化してきています。私はやはり、めくって読む本がいいなと思います。慣れもあると思いますが、紙の手触りは温かみがあります。

わからない言葉を、こちららも紙の辞書で繰り、読み進んでいきます。今までの怠けのため、わからない言葉が多くて辞書を引き詰めています。この一語を知ることによって、一行が、一頁が、さらにお話全体が開けていくと感じます。そして、その言葉と自分と一体になれる気がします。言葉は不思議です。たった一語のどんな助詞がつくか、また、文のどこにその言葉が存在するかでずいぶん文章が変わります。書く楽しみはそこにあるような気がします。

さて、読むことについて、これも楽しむことであります。だから、欲するものを読む。本の世界に入り込んで過ごす時間はいいですね。時々、家事の合間にその物語のひとたちと一緒にいるような錯覚に陥ります。この感覚



もいいですね。異なった世界をふたつ生きている。そうすると、現実の嫌なことも薄れてきます。物語と言ってしまいました。そうなのです。私はヤングアダルト向きの物語のファンなのです。子どもから大人になる橋の上で、心が揺れている少年と少女。好きです。今の大人の私として見つけるのではなく、もう私自身が少女になっっています。そうして物語は純粋な魂が生きる道を探って進んでいきます。この前向きの姿勢がとても好きです。

数年前、清水真砂子さん（*注）のお話をお聴きました。「すぐれた子ども」の本は『大きくなるって楽しいことだよ。生きてごらん。大丈夫』と背中を押してくれるもの」とおっしゃっていました。絵本が零歳から大人までと言われているですが、物語だって大人まで。子どもたちの悲惨な事件が報道されるのを見ますと、もっとゆるやかに、もっとおおらかに、大人が努力すべきだと思えます。手軽に別の世界に入り込める本はともいもない心の相手をしてくれると思います。

最近、文学の社会における役目みたいなことを、ふと考えました。それは「私は何故詩を書くの」と自分に問うたから

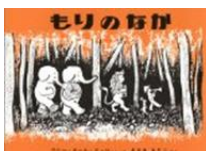
です。書物が読者のたったひとりだけの心であつてもそれを動かし、前へ進むわずかな力でも与えることができれば、充分ではないかと思えました。これからも読むこと、書くことを楽しんでいきたいと思えます。

*注：清水真砂子―翻訳家・児童文学研究者
浅野さんは、「ご家庭で二人のお子さんへの読み聞かせを、寝る前のひとときから朝ごはんのときにと時間帯を移しながら、中学三年生まで大切に続けられました。手づくり絵本「くるみの会」や詩の「むくの会」他で長く活動され、ていねいな暮らしの中で多くの作品を生みだしておられます。

著書：詩集「カッセーナ族の家」（1992）
『蔓草の海を渡って』（2009）

☆浅野さんおすすめの本

- 「ネコのグリーンシーをさがしたら」
メアリー・フランシス・シューラー作
- 「豚の死なない日」
ロバート・ニュートン・ペック作
- 「グリーンノウ物語」
ルーシー・M、ボストン作
- 絵本「もりのなか」
マリー・ホール・エッツ作



図書館クイズ

美濃加茂市には、9つの小学校があり、それぞれに図書館があります。どの図書館にも、読むための本がそろっているのをご存知ですか？

- ① 国語教科書で紹介されている各学年の本
- ② 美濃加茂市のせいせん図書
- ③ 小学生向き百科事典

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

本年度、加茂野小学校に読み聞かせサークル「かもん」が誕生しました。子どもたちに物語の世界を体感し、心豊かに成長してほしいという思いから始めました。

メンバーは地域の有志の方（学区外の方も

みえます）と保護者の方ですが、当校には現在二十以上のクラスがあるため、全てのクラスに読み手が入れると理想的だと思っています。活動としては年間六回で、第三火曜日の朝八時十五分から三十分まで行いました。

加茂野小「かもん」

読み聞かせの時の子どもたちは、私が教室に一步入ると熱い視線を私にではなく持っている本に注ぎます。絵本を読み始めるとキラキラした瞳が一斉に物語の中に入り込んでいきます。中には恥ずかしそうに時々視線を合わせてくれる子どももいます。いずれにしても興味津々といった感じで、自然に「ふーん」とか「そーか」と言葉が出たり、笑い声が聞こえたりしています。一緒に読んでいる私も楽し



なっています。ほんのひと時幸せな時が流れます。そして、その後お返しにと合唱のプレゼントをしてくれたりするので、感動です。



これからも、子どもたちに絵本の読み聞かせや本に触れる機会を増やしてあげられるといいなと思います。それには少々親の手助けが必要かと感じます。図書館や本屋さんへ出掛けて、一緒に本を探してみてください。宝探しみたいで面白くて楽しいですよ。今日出会った本が一生の宝物になるかもしれないのですから。

学校でも今年度から毎日朝読の時間が設けられ、読書により心を落ち着かせてから学習に入るといった取り組みや、家庭でも親子一緒に読書をしようと推進する取り組みがされています。ぜひ、ご家庭から読み聞かせを始めたいですね。

そして、読み聞かせサークル「かもん」に参加してみませんか。新しい発見があるかもしれません。お待ちしております。



えほん

「おじいちゃんが
おばけになったわけ」

キム・フォックス・オーカソン作

あすなろ書房1300円＋税

死んだはずのおじいちゃんがおばけになって部屋にいた。忘れものをみつけるために…それは大事な孫のエリックにさよならを言うことだった。大切な人は私たちに思い出をいっばい残してくれることをユ



ーモラスに教えてください。

物語

「ふしぎやさん」

林原玉枝作

アリス館1400円＋税

たんぼぼの綿毛は探査隊、世界中の情報を集めてくる。夏の野菜畑からは花の楽器の演奏会。クモの巣ののれんをくぐれば、そこはきのこのあかり屋です。誰にも姿を見せないふしぎやさんは、冬の森を一変させる。



春夏秋冬、森の美しい季節をぜひ想像してみてください。

小説

「ラブ・ウール100%」

井上 林子作

フレール館1300円＋税

アミコは、図書館の本「ラブラブだらけの編み物の本」に導かれて、不思議な素敵な毛糸屋さんへ。そこで、魔法使いのようなモヘア先生と十二ひきのねこたち、そして、みんなに出会った。笑いあり涙あり、心がほかほかになる物語です。



この本 読んでみて！

大人むけ

「難民からまなぶ世界と日本」

山村淳平著

解放出版社1200円＋税

著者は医者として難民キャンプの支援を経験しています。が、実のところその人たちのことを、わかったつもりでいて理解していません。たという。「難民である前に人間である」この言葉をもつて、今一度学んでみませんか。



図書館クイズの答え

正解は①②③
国語教科書で
紹介される全
部10冊のうち
1冊は、どの
ときも、校
にあり